

育てた稚エビを放流する—トヤマエビの放流試験—

研究分野

水産資源を増やす

ねらい

- ・ トヤマエビは、北海道近海や日本海の水深 100~400mの泥底に生息する深海性のエビで、通称ポタンエビと呼ばれており、体長 20cm に達する大型のエビです。
- ・ 富山県におけるトヤマエビの漁獲量は、最近では年間 10 トン前後と激減しており、稚エビを放流することによる漁獲量の増加が望まれてきました。
- ・ トヤマエビの稚エビを生産するための研究により、全長 25~30mm の稚エビならば 30 万尾、全長 80mm 前後ならば 1 万尾くらい育てることができるようになりました。これらの稚エビを海に放流し、どのくらい生き残って漁獲されるかを調べることで、稚エビを放流する効果がわかります。
- ・ そのため、いろいろな大きさの稚エビに標識をつけて放流し、どのくらい漁業者が捕まえてくるかを調べました。

成果

- ・ 小さいうち（体長 50mm 以下）に放流すると、たくさん放流しても漁獲されてくるエビの数は少なく（放流したエビの 1%未満）、大きくして（体長 50mm 以上）放流すれば、捕まる割合が高くなる（放流したエビの 5~7%）ことが明らかになりました。
- ・ 表面の海水の温度が高い時期には、温度が高すぎることにより、放流される稚エビに対してダメージがあることから、放流は避けた方が良いということも分かりました。

活用

- ・ トヤマエビでは、育成にかかる経費が放流して得られる漁獲の増加に見合いませんでしたが、放流方法に関する知見は、今後の深海性甲殻類の研究や放流に活かされています。



トヤマエビ放流作業



標識されたトヤマエビ

研究実施期間 平成 7 年度～平成 16 年度

問い合わせ先 富山県水産試験場 (076-475-0036)